

理科 2・3 類生命科学 2009 年夏学期 試験結果と講評

今年は試験の出来が比較的良好で、修正をしないでそのまま最終的な点数とした。

平常点 25, レポート 10, 試験 65。

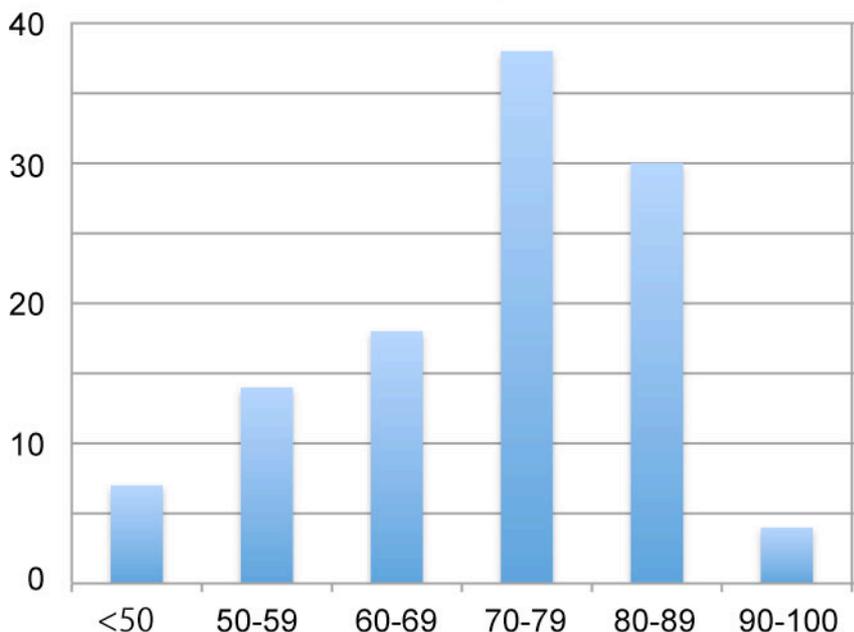
試験は一部難しい言葉もあったのだが、全問完璧な答案が 1 つあったので、無理なものではないこともわかった。平均点：平常点 23.3, レポート 4.1, 試験 70.44。

今回の問題は、例年とあまり変わらなかったため、事前に正答をしっかりと準備して暗記している者が多かったように見受けられる。遺伝子とゲノム概念などは、判で押ししたように同じ解答であった。しかし、ラクトースオペロンの問題は例年とかなり違うにも関わらず、昨年の問題に対する解答を書いたものが非常に多く、残念な結果であった。M-M 式の導出も、おそらく丸暗記しているようで、途中、暗算ではできない式変形が書かれているものが多かった。これは減点。I の効果は K_m 増加, V_{max} 不変, であるが、変に式で考えて混乱していた。

代謝に関する問題は、変に高校の知識がある者がおかしなことを書いていた。DVD で強調したように、ATP だけではなく、NADH や NADPH の機能をもっとよく考えて、代謝を酸化還元という目でも見てほしい。ポリメラーゼに関しては、生化学的な機能だけでなく、細胞内での役割についても言及してほしいのだが、比較的少なかった。最後の 6 は、ただ「難しかった」だけではなく、それをどうやって克服したのかという努力の説明がほしい。また、興味について具体的なものがあるのが普通だと思うが、あまり何も考えていないこともわかった。また、1-5 が全然できていなくて 6 だけ 1 ページいっぱい書いてもだめなので、節度が必要。

得点分布

理科 2・3 類



残念ながら不可 7 名。

今年特別に行ったこととして、初回のアンケートで、生物未履修、しかも 4 問とも不正解、という学生 11 名について、こちらから ECC のメールアドレスに、がんばるよにとのメールを送った。新入生全員に学生証番号を ID とする ECC のアドレスが与えられるので、こちらから送るのはできるが、情報の講義が始まらないとメールを見ることはないと思ったので、実際に当該学生が適切なタイミングで読んでくれたかどうか不安だったが、幸いこれらの諸君は A が 2 名、B が 5 名、C が 4 名で、一人も D がなかった。メールを出したことにどれほどの意味があったのかははっきりとはわからないが、メールを受け取って危機感をもったという学生もあったので、ある程度の効果があったのではないと思う。逆に、生物 I まで履修、4 問中 3 問正解という位の学生で D が多く出た。こうした学生は、かえって危機意識が少なかったのかも知れない。追試での検討を祈る。